

1998年10月6日

日本赤十字社  
社長 藤森昭一 様

日本アルコール問題連絡協議会

会長 上野 佐

理事長 河野裕明

<事務局>

中央区日本橋浜町3-19-3 ヲガ21ビル

アルコール問題全国市民協会内

☎03-3249-2551

FAX03-3249-2553

アルコール問題全国市民協会 (ASK)

アディクション問題を考える会 (AKK)

日本キリスト教婦人矯風会

日本アルコール医学会

日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会

飲酒運転に反対する市民の会

イッキ飲み防止連絡協議会

全日本断酒連盟

救世軍日本本営

国際グッドテンプレートズ

日本禁酒禁煙協会

日本禁酒同盟

アンスワール相互保険会社

日本赤十字社の災害救援物資 (お見舞品セット) として  
酒類を配ることへの抗議

水害による高知県の避難所に対して日本赤十字社から配られた災害救援物資 (お見舞品セット) にウイスキーが含まれていることを知り、大変驚いております。

本日、日本アルコール問題連絡協議会の事務局であるアルコール問題全国市民協会 (ASK) から、貴社救護課に電話で緊急抗議をしたところ、「被災者のメンタルヘルスのためにウイスキーを入れた」とのお答えで、耳を疑いました。

そもそも災害時の避難所は「禁酒」というのが国際的な常識です。それは、①ストレス下にある避難所で飲酒によるトラブルが起きるのを未然に防ぐこと、②被災地でのアルコール関連問題 (アルコール乱用・内科疾患・依存症など) の急増を防ぐこと、という意味があります。日本にはこの常識がなかったために、阪神淡路大震災の折りには、救援物資として酒類が配られ、あちこちの避難所で飲酒問題 (酩酊の上での騒音、酔い、喧嘩、泥酔など) が続発しました。仮設住宅の孤独死も大半が過度の飲酒によるものであったといわれています。私たちは、この苦い教訓を活かさなければならぬと思います。まして、災害時の救援を専門とする貴社におかれては、このような事態をご承知のうえ、対応すべきではないでしょうか。海外の赤十字社の活動に比べ、啞然とするものがあります。

ついでに、今後の日本赤十字社の救援物資から酒類をはずすことを強く要望するものです。もし、今の状態をこれからも継続されるのであれば、国際赤十字社への働き掛けも辞さぬ所存です。

貴社のご対応をご回答いただきたく、今月(10月)末までに、以下までご連絡ください。

アルコール問題全国市民協会 (ASK)

中央区日本橋浜町3-19-3 ヲガ21ビル

アルコール問題全国市民協会内

☎03-3249-2551

FAX03-3249-2553

代表 今成知美